



## 群馬大学アナログ集積回路研究会

—知る者は好く者に如かず、好く者は楽しむ者に如かず—

大学院工学研究科電気電子工学専攻 教授 小林 春夫

### 1. 研究会活動：基礎から先端まで共に学ぶ

群馬大学アナログ集積回路研究会は2001年に発足し、エレクトロニクス産業界から一流の方々に講師としての講演会を80回以上開催、関連学会の群馬大学での開催等の活動を継続的に行っている。これらは全て公開としており、学内・学外から毎回多数の参加者がある。新しい技術を知り、議論し、教えるのが好きで楽しいという人々である。研究会ホームページのアクセス数は10万件、案内メール配信先は1,000人におよび、新聞・専門誌に何回も取り上げてもらっている。

### 2. 三顧の礼で講演会講師・客員教授の先生を招聘

様々なメーカーの、第一線の研究者から天命を知る年代のマネージャー、さらに企業OBまでの多くの方々に講演会講師として招聘している。メーカー毎に得意なエレクトロニクス技術が異なり、様々な技術が学べるからである。「大学で講演を」とお願いすると世界的に著名な方々も善意で引き受けてくれる。連携大学院・共同研究イノベーションセンターでのマイクロエレクトロニクス関係の群馬大学客員教授は10名を超える。

### 3. アナログ研究会活動が大学での研究・教育に直結

事業を行うに際して「理念・目的」を明確にすることは重要である。孫子に「彼を知り己を知れば百戦危うからず」とあるが、これが明確でないと「彼（競争相手）」が誰かを見誤る。アナログ集積回路研究会は大学主体で運営し、関係研究室の教員・学生の研究・教育の向上を図る（世界と競争できる）ことが第一義の目的である。この活動を継続すれば我々はどんどん力をつけていく。自分のために行うときに人は最も力を発揮する。「人の為（ため）」と書いて「偽（いつわり）」と読む。

### 4. 強い産学連携のシステム作り

「大学に来るとほっとする、実家に帰った気持ちになる」という人が多い。「利」よりも「心」、「中立公正の立場」、「公開」が大学の力である。研究会は全て電子的な案内であり、迅速で柔軟な対応で最新情報を提供できる。

講師の先生、産業界、群馬大学にとってそれぞれが「自分のために仕事をする」ことでそれぞれが「何倍ものメリットを享受する」システムを作ることが強い産学連携の要諦である。Win-Winの関係を築く。将と兵の利害が一致している軍は強い。

### 5. 群馬大学の国立大学としての使命

日本のエレクトロニクス技術・産業の隆盛のためには、それにかかわる人を社会が大事にすることが肝要である。その一環として優れた技術者・研究者に表舞台にでていただき、この分野の学生・技術者・研究者への情報提供・教育・技術伝承の場を作るのが国立大学の使命と考えている。技術者は日本社会の宝と思う。



2008年3月21日のアナログ講演会後の交流会での産業界からの客員教授の先生、群馬大学教職員・博士課程学生の集合写真。研究会・交流会では技術を議論し、教育を慮り、世界と未来を語る。

アナログ研究会HP

<http://www.el.gunma-u.ac.jp/analog/>